

セルリアンタワー能楽堂

定期能七月—喜多流—

二〇二三年 七月一日(土) 午後三時開演(二時三十分開場)

解説

金子敬一郎

能 鶉飼

友枝昭世

CERULEAN TOWER

能楽堂

NOH THEATRE

解説

金子敬一郎

— 休憩(十分) —

能 鵜飼

鵜飼の老人
閻魔大王 友枝 昭世

旅僧 宝生 欣哉

従僧 大日方 寛

所の者 高澤 祐介

後見 中村 邦生
友枝 雄人

地謡 佐藤 寛泰 金子敬一郎
佐々木多門 長島 茂
内田 成信 香川 靖嗣
友枝 真也 狩野 了一

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 小寺真佐人
小鼓 曾和 正博 笛 一噌 隆之

〈終演予定 午後四時三十分〉

◎鵜飼(うかい)

甲斐の国(山梨県)・石和にて旅の僧が一夜の宿を求めたのは、夜になるとなにより光るものが出るという噂のあるお堂でした。そこへ、鵜飼の老人がやってきます。僧は老人に殺生を止めるよう戒め、昔このあたりで親切にされた宿の老人にも同じような忠告をしたことを話すと、鵜飼は、その老人は亡くなったと告げます。殺生禁断の場所です。自分こそ鵜飼をしたため、川に沈められて殺されたのです。自分こそ鵜飼の霊であると語り、罪滅ぼしに鵜飼を使う様子を再現します。(中人)旅僧は里の者からも密漁して殺された男の

話を聞き、河原の小石に経の文字を書き川底に沈めて老人の霊を弔うと閻魔大王が現れ、鵜飼は地獄送りになるどころ、生前、僧に宿を貸して親切にした善行と経の功德によつて老人は極楽送りになったと告げ、法華経の有難さを讀めるのでした。

「阿漕」「善知鳥」と共に(三車賤)と呼ばれる曲で、生業のための狩りにもかかわらず殺生の罪で地獄に落とされた亡者が生前の狩猟の様子を再現することによって救済される姿を描いています。また、ワキの僧を言外に日蓮上人である事をほのめかしている、法華経礼賛の趣きが強い作品です。

2023年 7月1日(土)

午後3時00分開演 (2時30分開場)

◎前売開始：2023年4月1日(土) 午前10時00分より

※Bunkamuraでの一般発売日(4/1(土))は、Bunkamuraチケットセンター電話およびオンラインチケット MY Bunkamura(PC・スマートフォン)での受付となります。チケットカウンター(店頭)販売はございません。

◎料金：S席(正面) 12,000円
A席(脇正面) 10,000円
B席(中正面) 8,000円
(税込み)

※公演中止、または主催者がやむを得ないと判断する場合以外のチケットの払い戻しはいたしません。チケットご購入の際には、ご自身の体調や環境をふまえてご判断くださいますようお願いいたします。

◎チケット申し込み：

- ▶Bunkamura チケットセンター
- ▶オンラインチケットMY Bunkamura
- ▶東急シアターオーブ チケットカウンター

03-3477-9999(10:00-17:30)
<https://my.bunkamura.co.jp> [PC・スマホ対応/座席選択可]
渋谷ヒカリエ2F(11:00-18:00)【4/2(日)以降残席あれば】

「渋谷駅」国道246号線沿いにそびえる超高層ビル「セルリアンタワー」の地下2階。



※4/10(月)以降、営業時間に変更となる可能性がございます。最新情報はBunkamuraホームページでご確認ください。
※都合により公演の一部(出演者・曲目等)を変更する場合がございます。ご了承下さい。